

次定大会の望目的は、各部執行委員改選の結果を鑑みて、非乗務部からは、

高橋藤藏（車庫部三田）、佐伯健（電気部赤坂）

河野平次（軌工部浜松）、熊本利男（工場部志浦）

村内清作（電力部赤坂）

等東交内部に於て相当の経歴を持つ労働運動者によつて占められたのである。これに対し電車部からの選出委員を見るに、八名中七名

迄は刷新協議会の幹部であつた者の中から左の如く選ばれた。

今井清（犬塚車掌）、内海寅吉（早稲田車掌）

志倉朝次郎（新宿車掌）、梶清次郎（柳島車掌）

戸田武七（廣尾運転手）、掛札盛（線糸海車掌）

若地兼治（赤坂運転手）、橋本三郎（青川運転手）

而して前執行委員長黒留吉は電車部刷新協議会派の、小橋宗次郎

と共に会計就任し、執行委員長の重責には、昨年の協議調停委員会

の従業員側委員として活躍した、河野平次が選ばれた。

自動車部及新設せられた婦人部は不参加の爲、本部役員選出は保

留の止むなきに至つて現在に至る。

六、大会開催以後今日に至る諸情勢（統一協議会及同

業員側委員）と従業員間に於ける左右両派の動靜

存亡の危機を経験した東交の大会以後今日に至る間の情勢を観る

に、新本部は去月廿七日、各支部宛に同大会の決定を全組合員に報

告せ、東交の主題を述べ、

「臨時大会の最重要なる意義は東交の混沌無化を清算し、

空疎を強化する事とあり、

「本部は今後凡ゆる問題を捉へ、電気局に對する闘争を最も

果敢にせんとするものである。此の事とこそ現在のゆゑに

組織を強化し、各参加支部大衆を東交に再組織し得る道

であるのだし、

「不参加支部大衆に對しては、東交統一強化の爲、凡ゆる機会

を捉へて働きかけること、を主張し、現本部成立の意義は任務

を簡明徹底せしめ、全従業員の單一組合化を叫んでゐるのである。

更に大会に於て決議した、藤田派との妥協促進のため、統一協議

会の實現を務め、六月廿六日早稲田村一回協議会を開き進んで七月